

一般社団法人笠間青年会議所

2018年度理事長所信 大和田博之

はじめに・・・

我々の先輩達は『明るい豊かな社会の実現』に向け、多くの仲間たちとともに日々努力を重ねて来られました。青年会議所の組織は単年度制であるがゆえ、1年という限られた時間の中で、今何が必要なのか、今何が求められているのかをしっかりと考え、日々変わり行く時流に合わせた活動をしていく必要があると考えています。それらは、後にこの組織を引き継いで行くためにも重要な事です。やることで満足するのではなく、やることで得られる結果、与えられる結果がすべてではないでしょうか。本年度は「積小為大」のスローガンの下、我々が住むこの地域が少しでも「明るい豊かな社会」へと近づけるよう一步一步足元を踏み固めながら、進んで参ります。

積小為大・・・

小を積みて大と為す。

何事にも順序というものがあります。気が早まって早く成し遂げようと願ってはならないですよ。という戒め

小は自らの身の丈にあったもの、平凡なものでありそれが集うことでやがて大なるものへととなる。

自己啓発

明るい豊かな社会を築き上げるという目的を持つ私たちにとって最も大切な事は、自己成長だと考えます。自らが学び・成長し、正しい情報を発信しなければなりません。自らが考えなければ誰も考えません。自らが行動しなければ誰も行動しません。そして、誰も行動しなければ何も変わりません。

先の見えにくい社会情勢だからこそ、我々自身が学び・行動し「社会・地域・家族」に向けて発信して参りましょう。

人は、一度学んだことをそのままにしておくと、3日でおおよそ80%の記憶が失われると言われていています。ならば、その学び得たものを周りに発信することによって、自身が復習し、周りの人たちが新しい学びを得て、お互いに成長できるのではないかと思います。

進化は短時間では難しいでしょう、しかし変化はできるはずで。今だからこそ自己修練し、JCと言う組織が最高の学舎であるという事を自身で感じ、メンバー一丸となって「家族の為に」「地域の為に」「社会の為に」行動して参りましょう。

青少年育成

インターネットやSNSの広まりにより、私たちの生活は年々便利になっています。しかしその一方、それらを頼りすぎるあまり、コミュニケーション能力や度合いは、低下しているように感じます。未来を担う子供たちの為にも、今の時代だからこそ、あえてアナログというものを見直す必要があるのではないのでしょうか。親とふれあい、子供たち同士でふれあい、地域の方たちと触れ合う。対面でのコミュニケーションを育むそんな事業を行って参ります。

会員拡大

青年会議所は40歳で卒業しなければなりません。それは、経験のある力強い戦力を失うと共に、それを補うため新たな強者が誕生します。この新陳代謝こそ個人の成長でもあります。しかし、数は力なりと言いますが、何かを成し得ようとした時多くの同志が必要になります。継続の為なら同数で、繁栄の為なら今まで以上の同志が必要です。この組織そして地域繁栄の為にも一人でも多くの方々に我々の活動を理解していただき賛同を得るよう拡大運動をして参ります。

地区委員会

同じ地域で生活をしているメンバー同士のコミュニティーは、幼少期時代からの繋がりや地域団体などの活動において、JC運動以外でも生まれる、大きな力があると考えております。その様な地域コミュニティーの特性を生かし、定期的に交流会を行う事により地区委員会メンバー間の結束力を更に強め、声を掛け合う事でJC運動への参画意識の向上、また出席率の向上にも繋げて参ります。

結びに…

1年365日・1日24時間、私たちに与えられている時間は皆平等です。その限られた時間の中で、私たちはそれぞれに背負っている社会的立場を全うしながらJC運動を行っています。だからこそ、誰のために・何の目的で行うのかを明確にし、皆様大切な大切な時間を無駄にしない為にも、全メンバー一丸となって明るい豊かな社会の実現に向け、実りある1年を邁進して参りましょう。

2018年12月31日まで、1年間どうぞよろしくお願いいたします。